JCMA
一般社団法人 日本建設機械施工協会 東北支部　支部たより

とうほく

Summer 2025
Vol.189

令和7年度　東北支部第14回通常総会開催
【見聞録】EE東北'25　みてある記
除雪グレーダの除雪作業装置自動化システムについて
ゆきみらい2025 in上越　除雪機械展示・実演会　開催報告
「令和7年度　雄物川総合水防演習」に参加して

目　次

巻頭言　「スマート生産技術のさらなる進化に向けて」
東北支部　副支部長　横井　隆幸　1

令和7年度　東北支部第14回通常総会開催　3

情報化施工技術委員会の取り組み紹介（VOL.2）
情報化施工技術委員会　事務局　阿曽　貢貴　7

【見聞録】ＥＥ東北'25　みてある記　東北支部　専門技術員　土肥　孝俊　8

国土交通省コーナー
除雪グレーダの除雪作業装置自動化システムについて
国土交通省　東北技術事務所　施工調査・技術活用課　岩渕　俊輔　11

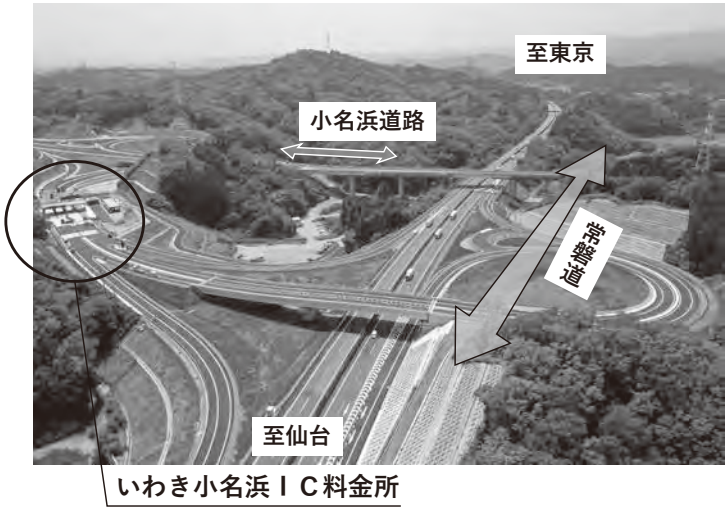
ゆきみらい2025 in上越
除雪機械展示・実演会　開催報告
広報部会　副会長　井上　秀秋　15

「令和７年度　雄物川総合水防演習」に参加して
技術部会長　福田　智之　17

安全コーナー
熱中症対策の強化について
～令和7年6月1日改正労働安全衛生規則施行～　建設部会　飯田　英厚　19

支部行事・会員情報　21

【表紙写真】



「いわき小名浜ＩＣ」

ふくしま復興再生道路として福島県が整備を進めてきた小名浜道路の開通に合わせ、福島県とNEXCO東日本と整備を進めてきた 常磐自動車道 いわき小名浜（おなはま）ＩＣが供用開始します。

小名浜道路の開通により物流・産業・観光の面から地域の活性化を支援するとともに、大規模災害時の円滑な緊急輸送確保や、小名浜港周辺などの車両混雑緩和などの効果が期待されています。

事業主体：福島県、NEXCO東日本
撮 影 地：福島県いわき市
撮 影 者：NEXCO東日本㈱東北支社　いわき工事事務所
（令和7年5月撮影）

巻頭言

「スマート生産技術の さらなる進化に向けて」

東北支部　副支部長　横井　隆幸
（鹿島建設株式会社　執行役員東北支店長）

皆様、平素より建設機械施工協会の活動推進にご尽力、ご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

本年３月で東日本大震災から14年となりました。今年度は復興における重要な段階である第二期復興・創生期間の最終年度であり、次期復興・創生期間に向け、被災者支援や住宅再建、産業再生、原子力災害復興、創造的復興が進められています。

また、生産・商業などの施設や、風力発電などの再生可能エネルギー関連施設を中心とした民間の設備投資意欲は引き続き旺盛であること、そして国土強靭化対策などの出件も予定されていることから、コロナ禍からの回復基調が続き、東北における建設需要は今後も堅調に推移していくものと思われます。

このように東北においても繁忙度の高い状況が続く中、建設業に対する時間外労働の罰則付き上限規制の適用が始まり、１年が経過しました。各社においては、現場閉所や就労時間短縮に伴う労務単価への反映、生産性向上、業務効率化など、基準を満足すべく、目下対応中と思いますが、発注者・受注者・協力会社の３者が、より一層の協力関係を構築し、適正な工期の確保や４週８閉所の実現、契約の見直しに関する協議などの取組みをもう一歩前に進めていくことが必要です。

当社としましても、ここ数年、全社を挙げて働き方改革を推進し、多様な人材が多様な働き方で活躍できる環境整備に取り組んでおり、デジタルの力も借りた業務の抜本的な見直しに挑戦しています。

土木部門では、現場の工場化に向け、自動化施工技術の造成・トンネル工事への展開とインフラ更新技術のシステム化を推進しています。当社固有の技術である自動化施工システム「Ａ^{4}ＣＳＥＬ®（クワッドアクセル）」を成瀬ダム堤体打設工事（秋田県雄勝郡東成瀬村）において活用し、今後造成工事などへの導入を計画しています。

また、適用領域の拡大として、神岡試験坑道（岐阜県飛騨市）において、山岳トンネル工事の自動化発破穿孔などの一部は実用化が完了しており、全国の現場への適用を開始し、施工の自動化、遠隔化による安全性や生産性の向上を図っています。

また、建築部門では、ロボット技術や遠隔管理手法の適用拡大、ＢＩＭデータなどを活用した建築生産プロセスのデジタル化による生産性向上、省人化を図るなど、デジタル化・機械化を軸としたスマート生産技術の運用と更なる進化を目指しており、全国120以上の現場にロボット技術や軽量化資機材を導入し、ＩＣＴツールの活用などによる現場作業の低減を進め、省人化・生産性向上を図っています。各ツールの活用後にはフィードバックを実施し、技術改善や有用な技術の水平展開に加えて、社員の技術開発や活用に対する意識を醸成させています。また、当社が幹事会社の１社となっている建設施工ロボット・ＩｏＴ分野での技術連携に関する共同企業体「建設ＲＸコンソーシアム」において、ロボット施工やＩｏＴ分野で248社との相互利用や共同開発を進めており、建設業界全体での生産性、安全性の

向上、コスト削減に向けた取組みを継続しています。

就業者が減り続ける中、昨年度から時間外労働の罰則付き上限規制が開始されるなど、労働者不足への対策として、生産性向上が建設業界の最重要課題となっておりますが、作業条件や環境が目まぐるしく変わる建設工事現場において、今後も省人化や生産性向上への取組みを着実に進めていくことこそが、建設業界全体の生産性や魅力の向上にもつながると考えております。

結びに、今年６月から、熱中症対策の強化として、労働安全衛生規則が改正となり、熱中症のおそれがある労働者を早期に発見し、状況に応じて、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重症化を防止する目的で、「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者に義務付けられました。

当協会会員各社様におかれましては、現場の実態に即した具体的な対応を実施いただくとともに、各々の持ち場で常に生産性向上を意識しながら、我々建設業がより魅力ある業界となっていくことにより、建設業を志す若者が増えていくよう尽力していただきたいと思います。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

写真１　「A^{4}CSEL®」を導入し、自動化建設機械で堤体打設を行う成瀬ダムの現場

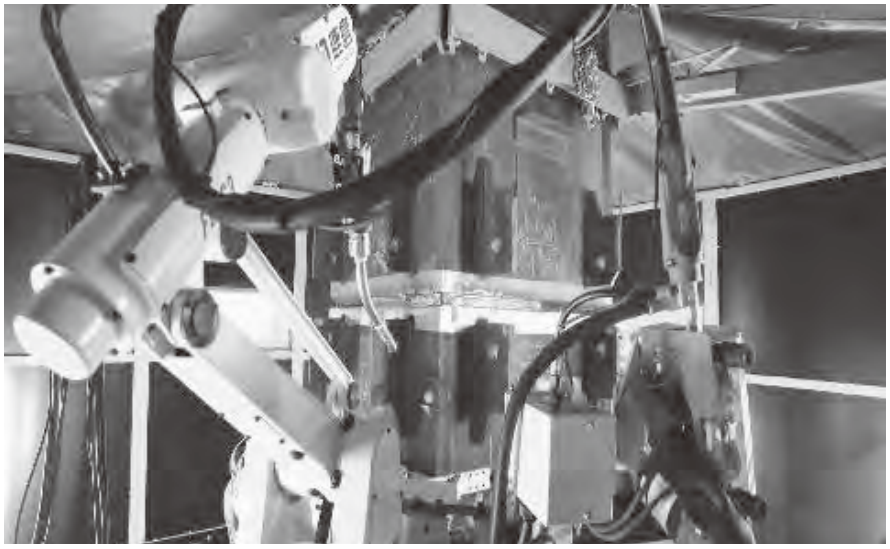


写真２　次世代溶接ロボット（スマート生産技術）

令和７年度　東北支部第14回通常総会開催

一般社団法人日本建設機械施工協会東北支部の第14回通常総会は、令和７年５月19日㈪15時00分から仙台ガーデンパレスにおいて開催されました。

出席者は高橋弘支部長ほか合計95名で、本部からは業務執行理事岩見吉輝氏、又来賓として（一社）日本道路建設業協会東北支部長新谷悟様、（一社）宮城県建設業協会会長代理技術顧問菅原敬二様にご出席いただきました。また、東北地方整備局企画部長宮本健也氏による特別講演も実施しました。

総会は、山尾昭企画部会長の司会で進められ、高橋弘支部長及び岩見吉輝本部業務執行理事の挨拶のあと審議に入り、第１号議案から第５号議案まですべて承認されました。

日　　時　令和７年５月19日㈪　15：00～
場　　所　仙台ガーデンパレス
　　（仙台市宮城野区榴岡４－１－５）
議決権総数　158社
出 席 者 数　66社
委 任 状 数　77社
有　効　数　143社

１．あいさつ

東北支部長
高橋　弘　氏

本部業務執行理事
岩見　吉輝　氏

２．議長選出

支部規程第16条に基づき、高橋　弘支部長が議長を務めることとし、議事が進められた。

議長　高橋支部長　選出

3．総会成立宣言

本総会への出席団体会員数は、支部会員158社のうち、143社（うち出席者66社、委任状77社）の出席で、支部会員数

過半数を超える出席数に達し、支部規程第17条に基づいて、本総会が成立することについて事務局長から報告があり、議長が総会成立宣言を行なった。

4．書記の選出

議長は次の方々を議事録署名人に指名。

議事録署名人

㈱丸島アクアシステム

東北支店長　藤田　裕明　氏

西尾レントオール㈱

執行役員東北営業部長　富山　泰幸　氏

5．議案審議

第１号議案

令和６年度事業報告書承認に関する件

第２号議案

令和６年度事業決算書承認に関する件

第３号議案

令和６・７年度役員の改選について

第１号・２号の議案について、事務局から説明があり、承認可決された。

３号議案の役員の改選については、令和７年度役員名簿による説明があり、異議なく承認された。

第４号議案

令和７年度事業計画書に関する件

第５号議案

令和７年度事業予算書に関する件

第４号・５号議案について、事務局から説明があり、承認可決された。

6．議事終了宣言

第５号議案審議終了後、質問、意見、提案の無いことを確認し、議長が総会議事審議の終了宣言を行なった。

7．表彰式

本部会長の感謝状を授与される永年会員の方々と東北支部長から表彰状を授与される方々の表彰式が行われた後、記念撮影があった。

【本部会長感謝状について】

⑴　永年会員表彰

永年支部団体会員として事業の推進に尽力され、建設機械・建設施工の発展に貢献した次の各団体会員に本部会長の感謝状が岩見吉輝本部業務執行理事から伝達授与された。

永年会員表彰授与

会員期間40年（敬称略）

㈱エス・ケイ・ディ　仙台支店

上北建設㈱

㈱菊池組

國井建設㈱

㈱後藤組

㈱佐藤組

スバル興業㈱　東北支店

髙吉建設㈱

㈱塚本商会

㈱中舘建設

日本製紙石巻テクノ㈱

㈱藤本建設

本間建設㈱

万六建設㈱

㈱山崎組　以上　15社

会員期間30年（敬称略）

三洋テクニックス㈱　以上　１社

⑵　永年役員表彰

永年支部役員を務めて協会の事業推進に尽力され、建設機械・建設施工の発展に貢献された次の方々に本部会長の感謝状が岩見吉輝本部業務執行理事から伝達授与された。（敬称略）

田中　恒雄　　万六建設㈱

富山　泰幸　　西尾レントオール㈱　東北営業部

鹿野　安彦　　カナデビア㈱　東北支社

諸橋　良二　　範多機械㈱特販部　以上　４名

永年役員表彰授与

【東北支部長表彰について】

支部表彰規程に基づく支部会員からの推薦と、表彰者選考委員会の推薦により受賞が決定された次の方々に、高橋弘支部長から表彰状と記念品が授与された。

⑴　建設機械化功労者

永年支部役員を務めて協会の事業推進に尽力され、建設の機械化の発展に貢献された次の方に表彰状が授与された。（敬称略）

濵﨑　伸介　　西松建設㈱　北日本支社
斗沢　　力　　日立建機日本㈱　東北支社
吉越　一郎　　㈱安藤・間　東北支社
以上　３名

建設機械化功労者表彰授与

⑵　優良建設機械運転員

満15年以上建設機械の運転業務に従事し、職務成績が優秀で他の模範となる次の方々に表彰状と記念品が授与された。（敬称略）

清川　文男　　日本道路㈱　東北支店
大泉　　誠　　國井建設㈱
高橋　　猛　　日建工業㈱
船橋　卓実　　大管工業㈱　　以上　４名

優良建設機械運転員表彰授与

⑶　優良建設機械整備員

満15年以上建設機械の整備業務に従事し、職務成績が優秀で他の模範となる次の方々に表彰状と記念品が授与された。

鹿内佐千三　　住友建機販売㈱
播磨　　裕　　貴西尾レントオール㈱　東北営業部
以上　２名

優良建設機械整備員表彰授与

８．特別講演

表彰ののち、宮本健也企画部長より、「社会資本整備に関する最近の動向」について特別講演をいただきました。

講演される宮本企画部長

９．資料

会議資料のほか、次の資料が配布された。

①会員名簿　令和７年度

10．出席者内訳

協会本部	１名
会員会社	66名
支部役員等	25名
表彰者	24名
講演者	１名
講演者随行	３名
事務局職員	７名
合　計	124名

11. 出席団体会員　66社

（順不同・敬称略）

・旭イノベックス㈱　東北営業所
・飯田鉄工㈱　東北支店
・㈱荏原製作所　東北支社
・カナデビア㈱　東北支社
・北日本機械㈱
・佐藤鉄工㈱　仙台営業所
・㈱拓和　仙台支店
・㈱電業社機械製作所　東北支店
・東開工業㈱
・㈱西島製作所　仙台支店
・新潟トランシス㈱　東北営業所
・㈱ニコン・トリンブル
・西田鉄工㈱　仙台支店
・㈱NICHIJO　東北営業所
・日東河川工業㈱　東北営業所
・日本自動機工㈱　東北支店
・範多機械㈱　特販部
・㈱日立インダストリアルプロダクツ　北部支店
・豊国工業㈱　東北支店
・前澤工業㈱　東北支店
・㈱丸島アクアシステム　東北支店
・EARTH CREATE㈱
・㈱IHIインフラ建設　東北支店
・青木あすなろ建設㈱　東北支店
・㈱安藤・間　東北支店
・㈱エス・ケイ・ディ　仙台支店
・鹿島建設㈱　東北支店
・國井建設㈱
・㈱興和　東北支店
・㈱佐藤組
・㈱佐藤工務店
・清水建設㈱　東北支店
・ショーボンド建設㈱　北日本支社
・スバル興業㈱　東北支店
・大管工業㈱
・㈱大和エンジニヤリング　仙台営業所
・髙吉建設㈱
・㈱谷工機社
・㈱テクアノーツ
・東亜道路工業㈱　東北支社
・東北グレーダー㈱
・㈱中舘建設
・㈱NIPPO　東北支店
・日本製紙石巻テクノ㈱
・日本道路㈱　東北支店
・能美防災㈱　東北支社
・本間建設㈱
・前田建設工業㈱　東北支店
・万六建設㈱
・㈱山崎組
・YCG福島㈱
・コマツカスタマーサポート㈱　東北カンパニー
・三洋テクニックス㈱
・住友建機販売㈱　東北統括部
・日本キャタピラー（同）
・日立建機日本㈱　東北支社
・㈱ダイワ技術サービス
・㈱ホツマプラント
・㈱アクティオ　東北支店
・山水電機工業㈱
・西尾レントオール㈱　東北営業部
・ユナイト㈱　仙台営業所
・㈱レンタルのニッケン　北日本支社
・㈱ワキタ　東北建機レンタル統括部
・㈱セイトウ社
・東京計器㈱

12. 委任状提出団体会員　77社

（順不同・敬称略）

・岩崎工業㈱
・サイテックジャパン㈱
・スカイボックス㈱
・㈱瀧神巧業
・月島JFEアクアソリューション㈱　仙台支店
・㈱トプコンソキアポジショニングジャパン　仙台営業所
・藤木鉄工㈱
・古河産機システムズ㈱　東北支店
・ライカジオシステムズ㈱
・㈱浅間建設
・置賜建設㈱
・大森建設㈱
・小国開発㈱
・奥村組土木興業㈱　仙台営業所
・㈱小野工業所
・㈱小野良組
・㈱柿崎工務所
・上北建設㈱
・㈱狩川佐藤組
・㈱菊池組
・建装工業㈱　東北支店
・㈱後藤組
・㈱佐々木建設工業
・三立道路㈱
・㈱情野建設工業
・㈱高嶋組
・㈱塚本商会
・寺嶋建設工業㈱
・東北化工建設㈱
・㈱鳥山土木工業
・西松建設㈱　北日本支社
・日建工業㈱
・日本ハイウエイ・サービス㈱　仙台支店
・日本ロード・メンテナンス㈱　仙台営業所
・㈲弘前重機
・富士建設㈱
・㈱藤本建設
・古城建設㈱
・前田道路㈱　東北支店
・升川建設㈱
・㈱松田組
・㈲源興業
・㈱三村興業社
・宮城建設工業㈱
・㈱宮部組
・矢田工業㈱
・山形建設㈱
・山和建設㈱
・菱和建設㈱
・いすゞ自動車東北㈱
・㈱快適空間FC
・コベルコ建機日本㈱　東北支社
・コマツ秋田㈱
・コマツ岩手㈱
・コマツ福島㈱
・コマツ山形㈱
・昭和建機㈱
・㈱那須自動車
・藤髙自動車興業㈱
・リーグルジャパン㈱
・㈱草野測器社
・Dアカデミー東北
・HaruMCサービス㈱
・㈱山形測器社
・青森リース㈱
・㈱イー・イー・エス
・㈱イマギイレ　東北支店
・㈱岩手測器社
・㈱ダイワテック
・福島建機㈱
・㈱ほくとう
・㈱ワイティ・クリエイション
・㈱渡敬
・川田テクノシステム㈱　仙台営業所
・㈱建設システム　仙台営業所
・㈱PCT
・福井コンピュータ㈱　北日本営業所

情報化施工技術委員会の取り組み紹介 VOL.2

情報化施工技術委員会　事務局　阿曽　貢貴
（支部参与）

ＶＯＬ.１のあらまし

ＪＡＣＭＡ東北支部は、情報化施工の戦略的普及方策をとりまとめた「情報化施工推進戦略」（2008年～2012年）を推し進める東北地整と連携し、地元建設業者に情報化施工を普及させる方策を模索し続け、情報交換会、現場研修会、座学講習会（情報化施工ゼミナール）を開催してきた。

本号では、情報化施工技術委員会の設立（2014.2.17）までの取組と６県セミナーの立ち上げ初期に触れる。

情報化施工技術委員会の設立構想から設立まで

①「情報化（ＩＣＴ）施工普及技術委員会」設立構想

2010.4,15付けの「情報化（ＩＣＴ）施工普及技術委員会」の設立計画案が支部事務局に残されている。

普及に取り組む技術を「ＧＰＳによる制御」、「トータルステーションによる制御」、「転圧管理システム等」とし、支部会員７社をメンバーとする案であった。

この構想の完遂は2014年まで待つことになるが、このメンバーが主体となり、更に数社の参加企業を加え、2010年２月、2011年11月、2012年８月に実施された「情報化施工（建設ＩＣＴ）ゼミナール」、2012年12月、2013年５月、11月には本部主催で実施された東日本大震災の復興工事に携わる企業向けの「”災害復興工事”に役立つ情報化施工講習会」の講師陣として活躍する。（写真１、２が状況写真）

写真１(左)
実技の説明を聞く受講者
場所：日本キャタピラー（同）
岩沼ICT研修センター

写真２（右）
実演するＩＣＴ建機

②「情報化施工技術委員会」設立

新たな「情報化施工推進戦略」（2013～2017）が策定され、情報化施工の普及拡大が重点目標に据えられたことを踏まえ、東北支部のこれまでの取り組みを東北６県に拡大強化するための組織作りが必要とされ、４年前の委員会設立構想が実現することとなる。

2014年２月17日に東北管内に情報化施工技術を普及、推進することを目的とし、情報化施工技術セミナー、現場見学会の開催を活動方針とする「情報化施工技術委員会」が設立された。

設立時のメンバーは15社（表１の○印）、建設機械メーカー・レンタル、測器メーカー・レンタル、ソフトベンダー、測位情報配信業者、地元建設業者で構成されていた。

表１　情報化施工技術委員会メンバー表

情報化施工技術委員会 名簿　社名の○印は発足メンバー　2025. 7 月

No.	会　社　名	No.	会　社　名
1	サイテックジャパン㈱	22	Ｄアカデミー東北
2	○ ㈱佐藤工務店	23	㈱岩手測器社
3	リーグルジャパン㈱	24	㈱山形測器社
4	○ ㈱アクティオ	25	大森建設㈱
5	○ ㈱カナモト	26	○ ㈱ジェノバ
6	○ 日本キャタピラー（同）	27	㈱建測システムサポート
7	○ ㈱建設システム	28	㈱ほくとう
8	○ コマツカスタマーサポート㈱ 東北カンパニー	29	㈱草野測器社
9	○ ㈱トプコンソキア ポジショニングジャパン	30	㈱渡敬
10	○ 西尾レントオール㈱	31	㈱イクシス
11	○ 日立建機日本㈱	32	ＨａｒｕＭＣサービス㈱
12	○ 福井コンピュータ㈱	33	㈱ＰＣＴ
13	○ ユナイト㈱	34	㈱ワキタ東北建機レンタル統括部
14	○ ライカジオシステムズ㈱	35	川田テクノシステム㈱
15	○ ㈱旭商会 仙台店	36	福島建機㈱
16	㈱シーティーエス	37	コベルコ建機日本㈱
17	ＹＣＧ福島㈱	38	㈱快適空間ＦＣ
18	㈱テクノシステム	39	レンタルのニッケン北日本支社
19	㈱イー・イー・エス	40	ＰｉＸ４Ｄ㈱
20	㈱ダイワ技術サービス	41	○ ㈱ニコン・トリンブル
21	㈱建設新聞社	42	（同）３Ｄスケープ

表１は、2025年７月現在のメンバー表であるが、委員長にサイテックジャパン㈱の鈴木勇治氏、副委員長に㈱佐藤工務店の佐藤敦氏とリーグルジャパン㈱の橋本靖彦氏の両名を置き、アドバイザーとして東北地整企画部建設専門官 佐藤英樹氏に就任していただいている。

次号予告

設立以降の委員会の歩みと功績
６県セミナーの変遷

【見聞録】ＥＥ東北'25　みてある記

東北支部　専門技術員　土肥　孝俊

１．はじめに

令和７年６月４日㈬～５日㈭の２日間、建設技術公開「ＥＥ東北'25」が、仙台市宮城野区港地区にある「夢メッセみやぎ」で開催されました。

この会場の様子を報告します。

２．「ＥＥ東北'25」概要

今回のＥＥ東北'25は「広げよう新技術　つなげよう未来へ」をテーマとして開催され、出展者数：384社、出展技術数：952技術（うちＮＥＴＩＳ技術数：238技術）を数え、また、天候等にも恵まれたこともあり総来場者数：18,300名（過去最高）を記録しました。

なお参考ですが、コロナ禍直前から７年間の開催状況は表－１のとおりです。

表－１　出展者数・出展技術数・来場者数

開催年度	出展者数	出展技術数	来場者数
令和７年度（ＥＥ東北'25）	384社	952技術	18,300名（過去最多） １日目 10,800名 ２日目　8,300名
令和６年度（ＥＥ東北'24）	378社	958技術	17,100名
令和５年度（ＥＥ東北'23）	385社（過去最多）	1,035技術	13,900名
令和４年度（ＥＥ東北'22）	358社	1,040技術（過去最多）	12,200名
令和３年度（ＥＥ東北'21）	319社	934技術	9,900名
令和２年度	新型コロナ感染防止のため中止		
令和元年度（ＥＥ東北'19）	295社	891技術	16,500名

３．オープニングセレモニー

初日６月４日10時からの開会式は、本館展示棟コンコース東側において、ＥＥ東北'25実行委員会構成団体を代表して西村拓東北地方整備局長の挨拶、来賓を代表して国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）グループ 増竜郎施工企画室長からの祝辞がありました。

その後、来賓・主催団体代表及び日本建設業連合会東北支部長、東北建設業協会連合会会長、当協会の高橋支部長などによるテープカットで開幕を祝いました。

西村東北地方整備局長：挨拶

増施工企画室長：祝辞

開幕をお祝いしてのテープカット

4．基調講演

開会式後の基調講演は、本館会議棟大ホールにおいて、増施工企画室長による「i-Construction2.0について」の演題で、建設業界の現在の状況や今後の展望、インフラＤＸの推進など講演がありました。

会場には、学生と思われる若い方も多数聴講されており、建設業界におけるＩＣＴ技術の紹介、ＤＸの推進などでは熱心に聴講していました。

増施工企画室長：基調講演

5．出展者、出展技術内容などの特徴

建設業界では、ＩＣＴ化により、さらなる省力化、安全性改善、施工性向上等に資する新技術の推進が浸透しているほか、今年１月下旬に埼玉県内で発生した水管破損による道路陥没事故等もあり一般社会の中でインフラ保守技術の重要性が再認識されているためと思われます。

昨年度と比較すると出展者数で微贈（378社→384社）、出展技術数では微減（958技術→952技術）となっていますが、ＮＥＴＩＳ登録技術の出展数は増（238技術→260技術）となりました。

出展技術の技術分野では、昨年度と比較して、設計・施工分野では微増（379技術→380技術）となり、維持管理・予防保全分野では増（312技術→335技術）、同様に防災・安全分野は微減（177技術→160技術）でした。

限られた小間数なので、年度ごとに出展者数や出展技術にバラツキはありますが、維持管理･予防保全分野での出展が２年連続で増えていました。

出展者数・出展技術者数は以下のとおりです。

表－２　分野毎　出展者数・出展技術数

技術分野	令和７年度		令和６年度	
	出展者数	技術数	出展者数	技術数
（A）　設計･施工	147社	380技術	135社	379技術
（B）　維持管理･予防保全	150社	335技術	156社	312技術
（C）　防災･安全	70社	160技術	63社	177技術
（D）　その他	17社	77技術	24社	90技術
計	384社	952技術	378社	958技術

今年は、西館展示場において重機シミュレーター体験会の開催が開催されました。

近年、建設業界の熟練オペレータの引退や車両の習熟期間ないまま現場に就かざるを得ない若手オペレータ確保のための方策として、建設機械シミュレーター導入が進んでいます。

また、シミュレーターを進化させて実機を遠隔操縦することで新規入職社を迎えた会社がテレビで紹介されるなど、この分野に関する注目も高くなっています。

重機シミュレーター体験会ブース

西館以外にも、本館展示場で独自に展示するブースもあり、各所で順番待ちの行列ができる盛況でした。

重機シミュレーターには取材も･･･

6．新技術プレゼンテーション

新技術プレゼンテーションは、本館会議棟（Aホール・Bホール）で実施されました。

新技術出展者の中から、54技術のプレゼンテーションが２日間にわたり開催され、会場には多くの聴講者が訪れ、各技術の講演に聞き入っていました。

7．おわりに

ＥＥ東北は平成２年度から開催され、今回で34回目を迎えることが出来ました。

天候にも恵まれて、事故もなく開催できましたことは関係者の皆様のお力だと思います。

東北地方整備局をはじめ東北各県、日本建設業連合会東北支部などの構成団体の皆様、土木学会はじめ各新聞社など後援団体の皆様、そして主催されましたＥＥ東北実行委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。

また、快く、そして積極的にご出展頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。

最後になりますが、（一社）日本建設機械施工協会会員の皆様から、昨年を上回る42社141技術の出展をいただきましたこと、真にありがとうございました。

除雪グレーダの除雪作業装置自動化システムについて

国土交通省　東北技術事務所　施工調査・技術活用課　岩渕　俊輔

1．はじめに

除雪グレーダは、ブレードを用いて新雪除雪及び路面整正を行う除雪機械であり、幹線道路における除雪作業の主力機械となるもので、安全で安心できる冬期道路交通を確保するうえで重要な役割を担っている。

除雪グレーダによる除雪作業は、路面状況、道路構造及び沿道条件等にあわせた操作が必要であり、その操作は複雑で難易度が高く、オペレータの熟練した技術が必要である。

近年、建設業の担い手不足が懸念されるなか、除雪機械のオペレータにおいても担い手の減少や高齢化が進んでおり、人員の確保が困難な状況になってきている。

本稿では、担い手確保及び除雪レベル（品質）を維持するため、経験の浅いオペレータでも熟練オペレータと同程度の除雪レベル（品質）を維持することができるシステムの構築を目標として開発をしている、作業装置自動化システムについて紹介するものである。

2．作業装置自動化システムの概要

作業装置自動化システムは、作業負荷に応じた自動制御（作業負荷制御）、位置情報による自動制御（位置情報制御）で構成されており、作業負荷制御と位置情報制御の機能を合わせた制御が、統合制御である。

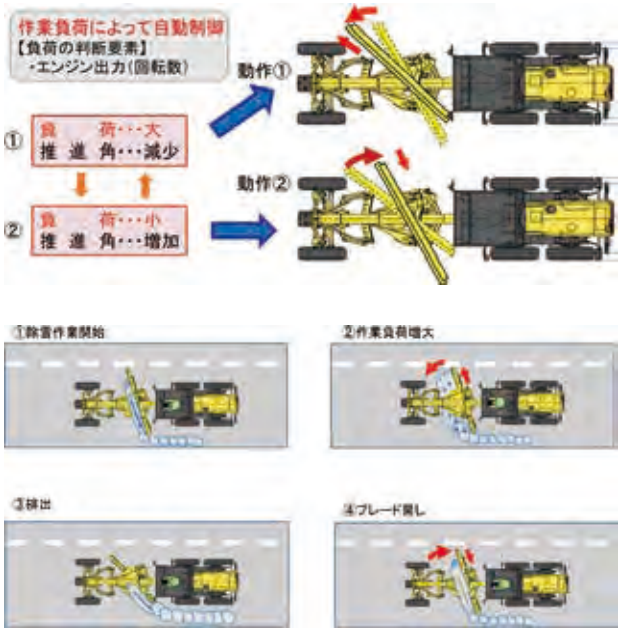
各制御について、(1)～(3)に記載する。

(1)作業負荷制御

除雪グレーダは、除雪作業によりブレードに抱える雪の量が増加すると、負荷により作業時の走行速度が低下する。オペレータは、ブレード推進角を小さくしブレードに抱えた雪を排出することで作業時の走行速度を維持している。また、ブレードの推進角を操作すると車体からのはみ出し量が変化するため、ブレードスライド調整によりはみ出し量を調整している。

作業負荷制御は、作業負荷に応じて調整が必要となる推進角とブレードスライドを自動制御するものである。

自動化にあたり制御要素を検討した結果、エンジン回転数を監視することで推進角を制御することが可能と判断し、アクセル開度95％（エンジン回転数1,900rpm）以上を条件とした。これは、橋梁ジョイント、マンホールおよびトンネル等、作業における注意箇所による走行速度の低下や、対向車、後続車両を避けるためのアクセルワーク等、除雪作業条件に伴うエンジン回転数の変化を排除するためである。自動制御の動作を図－１に示す。



図－１　自動制御の動作

(2)位置情報制御

位置情報制御は、ＧＮＳＳ受信機により衛星信号を受信し、取得した位置情報により自車位置を把握する。把握した自車位置の情報と除雪ベクトル地図のデータを基に所定の位置で、登録した動作をおこなう制御とした。

排雪するブレードと雪を抱え込むシャッターブレード、２つの装置を使用して、４つの動作を自動化することとした。なお、位置情報制御に用いる除

雪ベクトル地図のデータ作成は、ＭＭＳ（モービル・マッピング・システム）で取得した点群データを基に除雪作業データを組込み作成した。位置情報制御による各動作を図－２に示す。

①･②交差点や乗り入れ口に雪を残さないために操作するシャッターブレード開閉制御および推進角制御。

③右左折レーンやバス停等の除雪幅が変化する箇所での拡幅制御。

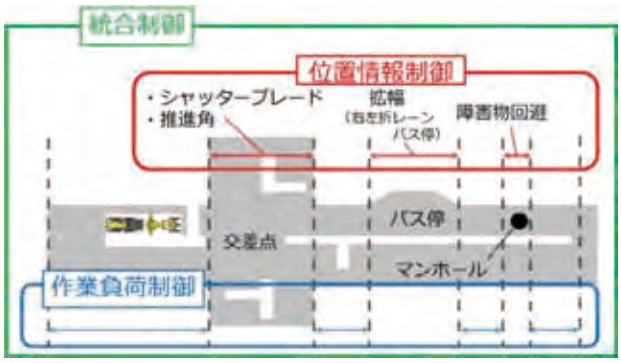
④橋梁ジョイント等の段差にブレードを接触させないための障害物回避制御。

図－２　位置情報による各動作

⑶統合制御

⑴作業負荷制御と⑵位置情報制御を組み合わせたシステムであり、手動操作時のアシスト機能も兼ね備えている。

統合制御は、作業負荷制御と位置情報制御が混在するシステムであるが、位置情報による制御を優先して稼働させることとした。これは、交差点等においては、雪が残らないよう作動する必要があり、バスレーン等の拡幅、障害物回避においても位置情報制御により作動させているためである。統合制御模式図を図－３に示す。



図－３　統合制御模式図

手動アシスト機能は、統合制御で用いる各制御を応用しており、手動操作時に動作をアシストする３つの機能がある。また、後述するガイダンス装置にてＯＮ、ＯＦＦの選択が可能となっている。手動アシストの各動作を図－４に示す。

①スライドアシスト

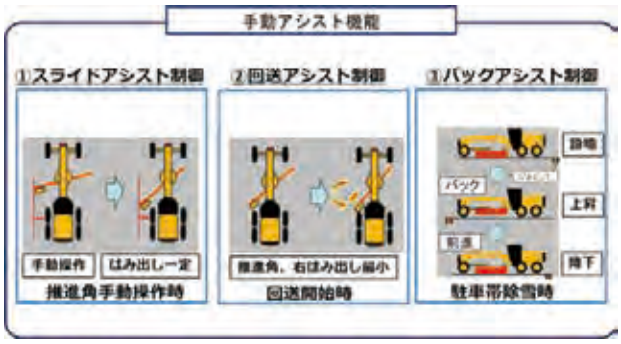
手動操作された推進角に応じて、はみ出し量を一定に維持する。

②回送アシスト

回送ボタン押下するとブレード上昇後、推進角とはみ出し量を制御し回送姿勢に移行する。

③バックアシスト

後進に切り替えた際にブレードを持ち上げ、前進にブレードを下す。



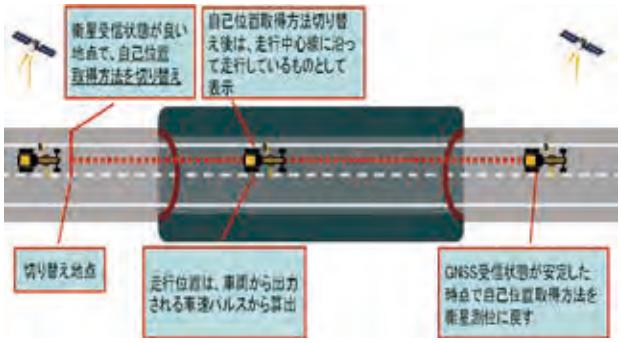
図－４　手動アシストの各動作

作業装置自動化システムにおいて、トンネル等により衛星から位置情報が得られない場合、衛星信号以外の情報を活用することで自車位置を特定して自動制御を継続する必要があるが、作業装置自動化システムでは、「経路線トレース方式」を採用している。経路線トレース方式の概略図を、図－５に示す。

①除雪ベクトル地図を基に、衛星信号の受信状態がよい地点（悪くなる前）で自車位置取得方法を切り替える。

②切り替え以降は、除雪ベクトル地図の走行中心線（経路線）に沿って走行していると仮定して、車速パルス、タイヤ周長、ＩＭＵ（慣性計測装置）の情報から自車位置を決定する。

③衛星信号の受信状態が安定した時点でＧＮＳＳにより衛星信号を受信し自車位置を再取得する。

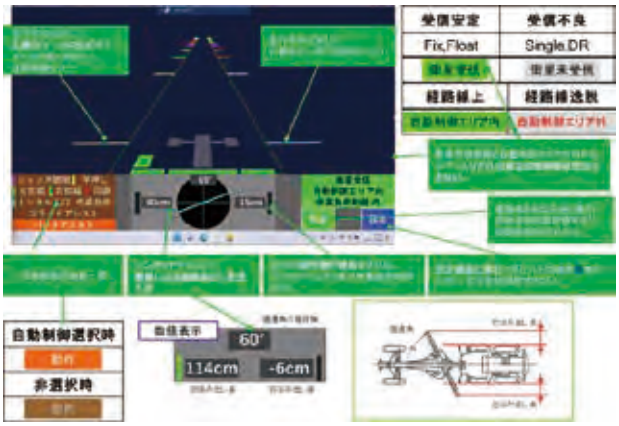


図－５　経路線トレース方式の概略図

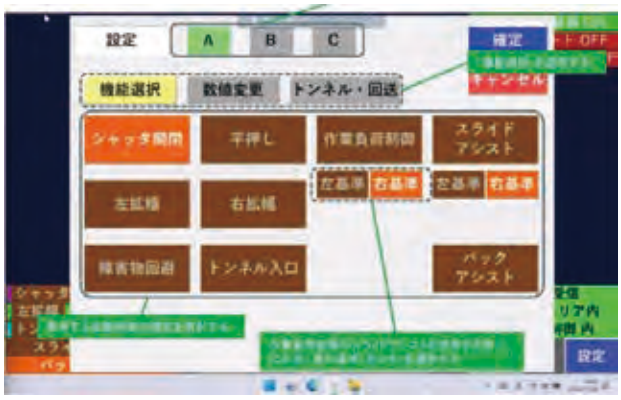
作業装置自動化システムで自動制御を行うにあたり、ガイダンス装置を製作した。

ガイダンス装置は、作業装置の状態と動作状況をオペレータに認知させるため、ブレード推進角とスライドの状態をガイダンス装置の画面中央下部に表示している。表示方法は、推進角とスライドの状態を数字および線による表示、または、数値のみ表示のいずれかを選択可能とした。ガイダンス装置は、現場条件などにより自動制御する項目を選択できるように開発し、選択した項目については有効になっていることがわかるようにハイライトで表示した。

位置情報による動作については、画面上部の地図上にマーカーを設置し、動作に応じたマーカー色を準備している。また、除雪作業中に画面を注視することが難しいため、音声および電子音による事前アナウンスを実施することとしたガイダンス画面の構成を図－６、自動制御選択画面を図－７に示す。



図－６　ガイダンス画面の構成



図－７　自動制御選択画面

３．構内実証試験

Ｒ６年度構内試験は、Ｒ５年度の現場適応試験で確認された課題や要望に対する改良を行ったシステムの作動確認を実施している。

⑴機体による作業装置の動作速度の違いへの対応

除雪グレーダは、作業装置ごとに動作速度に許容範囲を設定しているため、許容の範囲内で機体ごとに作動の誤差が生じる。誤差を解消するため、除雪グレーダの各作業装置の動作時間および作動油の油温を計測した。計測回数は５回とし、計測は、エンジン始動直後の油温が低い場合と暖気後の油温が安定した状態で行い、動作時間に違いがあるか確認した。各作業装置の計測内容を表－１に示す。

表－１　各作業装置の計測内容

作業装置動作	計測内容
シャッタブレード開閉	シャッタブレードが、開→閉となるまでの時間
	シャッタブレードが、閉→開となるまでの時間
推進角	推進角が、90°→60°となるまでの時間
	推進角が、60°→90°となるまでの時間
	推進角が、75°→60°となるまでの時間
	推進角が 60°→75°となるまでの時間
ブレード昇降	手動でオートブレードの手動回避を ON、OFF して上昇量と降下時間などを計測
スライド	推進角 90°で右はみ出し量が＋10 cmとなるまでの時間
	推進角 90°で右はみ出し量が＋20 cmとなるまでの時間
	推進角 90°で右はみ出し量が-10 cmとなるまでの時間
	推進角 90°で右はみ出し量が-20 cmとなるまでの時間

試験結果より、若干の変動は見られるものの、作業装置の動作速度は油温により大きく変化しないことを確認した。

作業装置のうち、シャッターブレードは間口や交差点における排雪の停止という明確な目標があり、シャッターブレードの開閉位置によって、残雪発生に影響があるため、シャッターブレードの動作速度を、ガイダンス装置から調整可能とするプログラムを作成した。

上記試験以外にも、統合制御システムの通信・作動確認試験、統合制御システムの精度確認と安定性確認、衛星不感地帯対策の検証等を実施しているが、いずれもシステムプログラムの改修や作業装置のバックラッシュ調整により良好な結果を得ている。

４．現場適応試験

現場適応試験は、構内実証試験による結果を反映したシステムを搭載し、模擬除雪による動作確認と除雪作業における走行試験を実施した。

⑴模擬除雪による動作確認

模擬除雪姿勢（ブレードを持ち上げた状態）で走行し、除雪作業位置データに基づき統合制御システムが正常に動作することを確認するとともに、シャッターブレード閉制御および障害物回避制御においては、プログラムの調整を行っている。

走行速度は、実際の除雪作業と同じ10～20km/hとした。模擬除雪による統合制御システムの動作確

写真－１　模擬除雪による統合制御システムの動作確認状況

動作確認は、後方からの目視確認およびオペレーターヒアリングにて行った。結果は概ね良好であった。

⑵除雪作業における走行試験

除雪作業における走行試験は、除雪作業中のデータ収集、およびドライブレコーダによる記録を行い、試験期間中にロギングデータとドライブレコーダの撮影データを回収することで動作状況を分析し、自動制御の正確性、確実性および安定性を確認した。除雪作業における走行試験状況を写真－２および写真－３に示す。

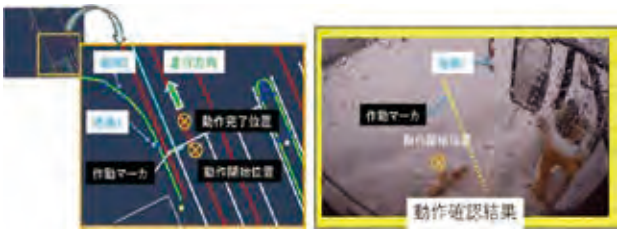
写真－２　除雪作業における走行試験状況①

写真－３　除雪作業における走行試験状況②

試験結果は、各作動マーカーに対する制御項目の動作位置を、ロギングデータおよびドライブレコーダの映像で確認した。各作業装置ともに、作動マーカーの位置で作動していることを確認し、結果は概ね良好であった。

作業マーカー位置とドライブレコーダ映像による動作確認結果のうちシャッターブレードを図－８、平押し（推進角拡大）を図－９に示す。

図－８　シャッターブレード



図－９　平押し（推進角拡大）

５．最後に

除雪グレーダの作業装置自動化システムの開発は、今年度最、終的な調整と現場への導入に向けたマニュアルの作成を行う予定である。これを完成させることで、除雪オペレータは、複雑な除雪装置の操作から解放され、車両の運転操作に専念できるようになる。また、経験の浅いオペレータでも熟練オペレータと同等の除雪レベル（品質）を維持しつつ安全な作業を実現することできる。これにより、安全で安心できる冬期道路交通の確保と作業負担軽減による担い手確保の一助になれば幸いである。

ゆきみらい2025 in上越

除雪機械展示・実演会　開催報告

広報部会　副会長　井上　秀秋
（古河産機システムズ株式会社　東北支店　技術顧問）

令和７年１月30日・31日の二日間、新潟県上越市において「ゆきみらい2025 in上越」が開催されました。除雪機械展示・実演会は、高度化された最新の除雪技術や除雪機械を紹介するものです。「ゆきみらい」は昭和36年に青森で初めて開催され、以降は東北・北海道・北陸の３地域が持ち回りで開いています。

このうち、除雪機械展示・実演会は高度化された最新の除雪技術や除雪機械を紹介するもので、今回は官公庁・機械メーカなど合わせて12団体が除雪機械や凍結防止剤散布車などを展示・実演しておりました。冬期の交通手段確保のために除雪機械の果たす役割は極めて重要であり、国民生活の安定には欠くことのできないもので、この展示・実演会を通して来場された方に広く理解していただくことには、大きな意味があります。

開催期間の二日間は、時折みぞれ混じりの雪と強風が吹き荒れ、屋外の展示の見学にはあいにくの天気でした。上越市内を含め展示会場付近は前日まで積雪がなく、積雪ゼロの暖冬傾向かと思われました。しかし、２月に入ってからは数十年に一度といわれる寒波が二度も日本列島を襲い、雪国の生活には除雪作業が欠かせないものであることを実感させられることになりました。

１．開催日時

令和７年１月30日㈭　10：00～16：00

令和７年１月31日㈮　９：00～15：00

２．開催場所　リージョンプラザ上越　駐車場

３．来場者数

ゆきみらい2025 in上越　2,370名

（１日目：1,030名、２日目：1,340名）

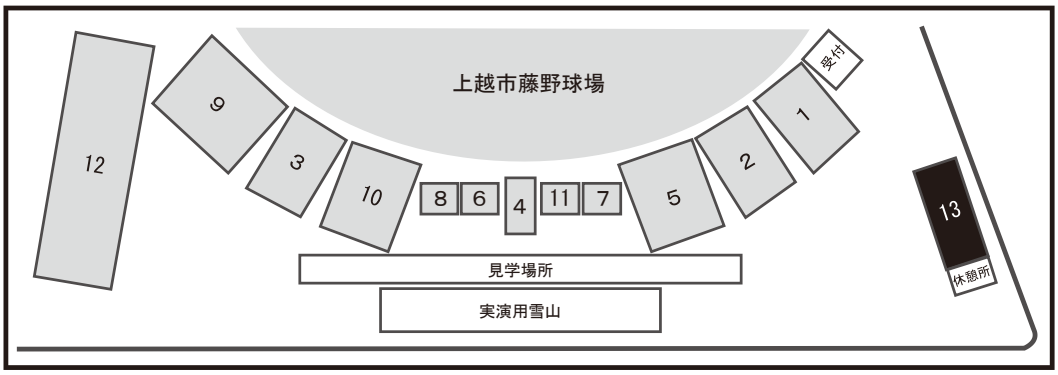
№.	出展者名	出展内容	実演
1	飛鳥特装㈱	スノープラウ、多目的作業車	○
2	岩崎工業㈱	除雪トラック	
3	ＫＡＮＥＫＯ 重機㈱	バックホウ	
4	㈱タイショー	凍結防止剤散布機	
5	中日本高速オートサービス㈱	防災用ＥＶ バイク	○
6	名古屋電機工業㈱	小型車載標識、ＬＥＤ散光式警光灯　他	
7	㈱ＮＩＣＨＩＪＯ	ロータリー除雪車、小型除雪車、凍結防止剤散布車	○
8	範多機械㈱	凍結防止剤散布車	
9	日野自動車㈱	凍結防止剤散布車用シャシ	
10	メルコモビリティーソリューションズ㈱	除雪機能付バックカメラ、除雪機能付き作業灯　他	
11	ＵＤ トラックス㈱	Ｑｕｏｎ 除雪車	
12	国土交通省 北陸地方整備局	除雪トラック、小形除雪車、照明車、除雪トラックシミュレーター	○

４．オープニングセレモニー

「ゆきみらい2025 in上越」のオープニングセレモニーは、高松国土交通省北陸地方整備局長による開会あいさつに続き、来賓の皆様と関係者によるテープカットが行われ開催されました。

来賓、関係者によるテープカット

1	範多機械株式会社
2	日野自動車株式会社
3	UDトラックス株式会社
4	名古屋電機工業株式会社
5	飛島特搬株式会社
6	株式会社タイショー
7	中日本高速オートサービス株式会社
8	メルコモビリティーソリューションズ株式会社
9	株式会社ＮＩＣＨＩＪＯ
１０	岩崎工業株式会社
１１	ＫＡＮＥＫＯ重機株式会社
１２	国土交通省北陸地方整備局北陸技術事務所
１３	ＪＣＭＡ事務局



除雪機械展示･実演会　会場配置

5．除雪機械出展各社のブース

飛鳥特装㈱ 展示ブース

岩崎工業㈱ 展示ブース

ＫＡＮＥＫＯ重機㈱

㈱タイショー 展示ブース

中日本高速オートサービス㈱ 展示ブース

名古屋電機工業㈱ 展示ブース

㈱ＮＩＣＨＩＪＯ 展示ブース

範多機械㈱ 展示ブース

日野自動車㈱ 展示ブース

メルコモビリティーソリューションズ㈱ 展示ブース

ＵＤトラックス㈱ 展示ブース

北陸地方整備局　除雪トラックシミュレーター展示ブース

5．おわりに

近年暖冬小雪傾向が続き、豪雪の少ない開催日を迎えました。しかし開催当日は、北陸の冬の厳しさを実感する思いでした。

降雪は、交通障害をもたらし地域住民の生活や安全を脅かし、物流の停滞を起こすなど社会経済に大きな影響を与えます。

「ゆきみらい2025in上越」の一環として開催された「除雪機械展示・実演会」は、最先端の技術や機械を見ていただき、生活環境を守るための除雪技術や、除雪が果たす役割を広く理解をいただく絶好の機会であります。日進月歩で進化してゆく技術は、目をみはるものがあります。来年はどのような新しい技術が展示されるのか期待したいものです。

最後に、開催にあたりご尽力を頂いた多くの皆様に、感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

来年は東北が担当で、秋田県大館市での開催が予定されています。

会場でみなさんにお会いできることを楽しみにしております。

「令和7年度　雄物川総合水防演習」に参加して

技術部会長　福田　智之
（西田鉄工株式会社　仙台支店長）

令和７年５月25日㈰「雄物川総合水防演習」が秋田県大仙市小貫高畑地先の雄物川右岸河川敷（「大曲の花火」公園）で開催されました。

コロナ禍により中止となった令和３年の翌年、令和４年から４度目の開催となり、当協会から高橋支部長と技術部会長の私が参加して参りましたので、演習の内容を紹介します。

国土交通省では国民の生命と財産を水害から守るため、水防の重要性の普及を図り水防に対する理解を深めることを目的として出水期を前にした５月を「水防月間」と定めています。

東北地方においては各県の持ち回りで「水防演習」を開催して水防活動のＰＲ・水防意識の高揚に努めています。秋田県では平成29年以来８年ぶりの開催です。

演習参加者整列

今年度の水防演習は雄物川流域８市町村、秋田県及び国土交通省東北地方整備局の主催で、当日は吉岡国土交通省事務次官をはじめとした関係機関のご臨席の下、東北各地の水防団団員や各参加機関含めて総勢約1300名での演習が盛大且つ厳粛に開催されました。

今年度の総合水防演習のテーマは**【そのとき、地域を守るひとがいる。】**として次の構成で進められました。

【情報収集訓練・洪水対応訓練】

この演習では、集中豪雨による増水により災害対策本部が設置されるところから始まり、河川巡視、水位状況の提供及びリエゾン派遣、被災箇所発見／水防団出動、各水防工法訓練（月の輪工、釜段工、シート張工、積土のう工など）、小河川の水防活動、簡易水防訓練、避難所開設・要配慮者避難、ダムの特別防災操作などの訓練が行われました。

各種水防工法の演習

【国・県・市町村・関係機関の連携訓練】

この演習では豪雨により堤防が決壊した想定で、国・自治体・関係各機関の連携体制、対応を確実に行う訓練が行われました。

大仙市自主防災会、グループホーム大仙大曲、藤木小学校の皆さんによる避難訓練、堤防越水の情報、氾濫情報の提供、自衛隊派遣要請、陸上自衛隊・秋田県消防防災航空隊・大曲仙北広域市町村圏組合消防本部、秋田県警察本部、日本赤十字社秋田

県支部による救助・救護訓練が行われました。またドローンによる被災状況調査、応急復旧訓練、排水作業訓練、ライフライン復旧訓練、支援物資輸送訓練が行われました。

避難訓練状況

自衛隊、警察本部、消防本部の救助・救出訓練状況

排水ポンプ車による排水作業訓練

【防災展・物産展・車両展示】

今年も会場内では防災知識を学ぶための防災展が開催され、参加機関による活動紹介、特殊車両や降雨体験装置などの展示コーナーが設けられました。

特殊車両の展示

物産展会場

本演習を通して、各機関の災害時対応の姿勢や水防団の方々の水防技術への維持・向上に向けたひたむきな姿勢に感銘を受けました。昨年（令和６年）に発生した能登半島地震、東北地方豪雨を教訓に、また何時来るか誰もが分からない災害に対して、日頃からの意識付け（何時・誰が・何を行う）を行って災害に備える重要さを参加された方々と共に改めて認識できた一日となりました。

安全コーナー

熱中症対策の強化について
～令和7年6月1日改正労働安全衛生規則施行～

建設部会　飯田　英厚
（西松建設株式会社）

1．はじめに

2025年６月１日から労働安全衛生規則改正が施行された。その改正の中に、事業者に対して熱中症対策が義務付けられている。背景として、熱中症による死亡者数は労働災害による死亡者数全体の約４％を占め、熱中症対策の重要性が高まっていることがある。今までは、熱中症の疑いがある人の早期発見や、重篤化を防ぐための対応について定めがなかった。今回の改正により、事業者が講ずべき熱中症対策について明記された。

2．労働安全衛生規則改正による熱中症対策義務化の内容

今回の改正では、事業者の熱中症対策に以下の２点が明記された。

①熱中症患者の報告体制の整備・周知

事業者は、暑熱な場所において連続して行われる作業など「熱中症を生ずるおそれのある作業」を行うときは、熱中症を生じた疑いがある作業従事者を発見した者に、その旨の報告をさせる体制を整備しなければならない（改正規則612条の２第１項）。

また、事業者が整備した熱中症患者の報告体制は、作業従事者に対して周知させる必要がある。

②熱中症の悪化防止措置の準備・周知

事業者は、暑熱な場所において連続して行われる作業など「熱中症を生ずるおそれのある作業」を行うときは、あらかじめ作業場ごとに、以下の措置の内容および実施手順を定めなければならない（改正規則612条の２第２項）。

・当該作業からの離脱
・身体の冷却（図－１）
・必要に応じて医師の診察または処置を受けさせること
・その他熱中症の症状の悪化を防止するために必要な措置

図－１

また、事業者が定めた熱中症の悪化防止措置の内容および実施手順は、作業従事者に対して周知させる必要がある。

3．事業者が講ずべき熱中症対策

①暑さ指数（ＷＢＧＴ）の把握・評価

※ＷＢＧＴ：Wet Bulb Globe Temperature（湿球黒球温度）の略称で、気温、湿度、日射・輻射熱を総合的に考慮した数値

表－ＷＢＧＴ値と熱中症予防のための行動指針

暑さ指数（WBGT値）	熱中症予防のための行動指針	
31℃以上	危険	運動は中止しましょう
28～31℃未満	厳重警戒	激しい運動は中止しましょう
25～28℃未満	警戒	積極的に休息をとりましょう
25℃未満	注意	

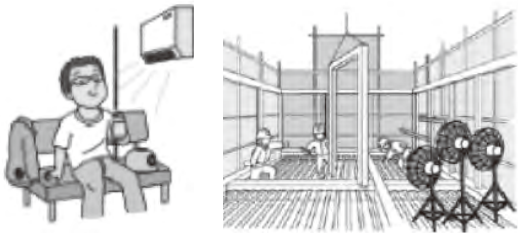
②作業時間の短縮等

・単独作業を控え、休憩時間を長めに設定する
・作業従事者の心拍数、体温および尿の回数や

色などの身体状況、水分および塩分の摂取状況を、管理者が頻繁に確認する

③暑熱順化への対応
※暑熱順化：体が暑さに慣れていくこと

④作業環境の管理（図―２）
・簡易な屋根の設置
・通風または冷房設備の設置
・ミストシャワー等による散水設備の設置



図－２（左）冷房付休憩所・（右）作業場所に扇風機配置

⑤水分や塩分の摂取
・水分および塩分の摂取を確認するための表を作成する
・作業中に巡視して確認する
・水分を常備する
・休憩設備を工夫する

⑥服装の調整
熱を吸収・保熱しやすい服装は避け、透湿性および通気性の良い服装の準備

⑦プレクーリング
※作業の前に体を冷やして体温を下げ、熱中症のリスクを減らすこと

⑧健康管理（図－３）
・疾病を有する者に対する配慮
・日常の健康管理に関する指導
・作業開始前における健康状態および暑熱順化の状況の確認
・作業中の健康状態の確認

図－３（左図）深酒をしない・（右図）定期的声掛け

⑨労働衛生教育
管理者と労働者に対して、以下の事項の労働衛生教育を行うことが求められている。（　）内は対象時間
⑴熱中症の症状（30分）
⑵熱中症の予防方法（150分）
⑶緊急時の救急措置（15分）
⑷熱中症の事例（15分）
（注）対象者の熱中症に対する基礎知識の状況に応じ、⑴および⑵をそれぞれ15分、75分に短縮して行うこととして差し支えない。

⑩異常時の措置
熱中症の悪化防止措置の内容および実施手順を周知する。

⑪熱中症予防管理者等の設置
熱中症予防管理者は、現場で熱中症予防対策を行う作業管理者などに対し、実施すべき対策のポイントなどを指示する。

４．熱中症対策を怠った事業者が受けるペナルティ

改正規則で定められた熱中症対策を怠った事業者は、都道府県労働局長または労働基準監督署長から、以下の使用停止命令等を受けるおそれがある（法98条）。
・作業の全部または一部の停止
・建設物等の全部または一部の使用の停止または変更
・その他労働災害を防止するため必要な事項

また、熱中症対策の実施義務に違反した者は「６カ月以下の拘禁刑または50万円以下の罰金」に処されるほか（法119条１号）、法人に対しても「50万円以下の罰金」が科される（法122条）。

５．おわりに

過去と比べて平均気温が高くなり、それに伴い熱中症の件数も増加している。熱中症で死亡する人も少なくありません。熱中症などの異変を感じた際は、医療機関への搬送・救急隊の要請を行いましょう。

自分も熱中症にならない、また、周囲の作業員にも熱中症にならないように、熱中症対策を行いこの暑さを乗り切りましょう。

支部行事

企画部会

■令和６年度　第３回　企画部会（対面＋Ｗｅｂ会議）
月　　日：令和７年３月10日㈪
参 加 者：山尾昭 企画部会長　ほか５名
議　　題：①令和７年度事業計画（案）について
②令和７年度事業予算（案）について
③令和７年度表彰候補者(案)について
④その他

■令和６年度　第３回　支部運営委員会
月　　日：令和７年３月17日㈪
場　　所：仙台市　仙台サンプラザ
参 加 者：高橋弘 東北支部長　ほか29名
議　　題：①令和７年度事業計画（案）について
②令和７年度事業予算（案）について
③令和７年度表彰候補者(案)について
④その他

■令和６年度　支部監査
月　　日：令和７年４月23日㈬
場　　所：東北支部会議室
出 席 者：浅野博之 支部監査役　ほか１名
内　　容：令和６年度の事業及び決算の監査全般

■令和７年度　第１回　企画部会（対面＋Ｗｅｂ）
月　　日：令和７年５月７日㈬
場　　所：東北支部　事務局会議室
出 席 者：山尾昭 企画部会長　ほか６名
議　　題：第１回支部運営委員会について
内　　容：①令和６年度　事業報告(案)について
②令和６年度　事業決算(案)について
③令和７年度　役員の交代について

■令和７年度　第１回　支部運営委員会
月　　日：令和７年５月12㈪
場　　所：仙台市　仙台ガーデンパレス
出 席 者：高橋弘 東北支部長　ほか31名
内　　容：①令和６年度　事業報告(案)について
②令和６年度　事業決算(案)について
③令和７年度　役員の交代について

■令和７年度　第14回　東北支部通常総会
月　　日：令和７年５月19日㈪
場　　所：仙台市　仙台ガーデンパレス
出 席 者：支部会員：143社（議決権総数158社のうち出席66社、委任状77社）
内　　容：①令和６年度　事業報告について
②令和６年度　事業決算について
③令和７年度　役員の交代について
④令和７年度　事業計画について
⑤令和７年度　事業予算について
⑥表彰（本部会長感謝状の贈呈ほか）
⑦特別講演「社会資本整備に関する最近の動向」
講　師　宮本健也 東北地方整備局企画部長

広報部会

■ゆきみらい2025 in上越
ー除雪機械展示・実演会ー視察
月　　日：令和７年１月30日㈭～31日㈮
場　　所：リージョンプラザ上越
参 加 者：高橋弘 東北支部長　ほか５名

■令和７年度　ゆきみらい2026 in大館（仮称）
現地打合せ
月　　日：令和７年２月20日㈭
出 席 者：秋元学 東北地方整備局企画部建設専門官、柏山一法 大館市建設部長
ほか８名
議　　題：①開催候補地視察
・見本市開催候補施設
・除雪機械展示・実演会会場候補地
・ゆきみらいシンポジウム会場候補施設
・ゆきみらい研究発表会会場候補施設
②現地打合せ

■令和７年度　第１回広報部会
月　　日：令和７年４月２日㈬
参 加 者：浅野公隆 広報部会長　ほか５名
内　　容：①「支部たより189号」の編集計画について
②原稿執筆依頼について

③表紙写真について
④本部機関誌「建設機械施工」令和８年２月号ずいそう原稿執筆者について
⑤　その他

■ＥＥ東北'25　第２回実行委員会作業部会
（Ｗｅｂ会議）
月　　日：令和７年４月15日㈫
出 席 者：佐藤英樹 東北技術事務所副所長
ほか17名
内　　容：①ＥＥ東北'25　開催概要
②ＥＥ東北'25　実施方針（案）
③ＥＥ東北'25　予算（修正案）
④今後の予定

■ＥＥ東北'25　第２回実行委員会
（対面＋Ｗｅｂ会議）
月　　日：令和７年４月21日㈪
出 席 者：宮本健也 東北地方整備局企画部長
ほか13名＋Ｗｅｂ参加12名
内　　容：①ＥＥ東北'25　開催概要
②ＥＥ東北'25　実施方針（案）
③ＥＥ東北'25　予算（修正案）
④今後の予定

■ＥＥ東北'25
月　　日：令和７年６月４日㈬～５日㈭
場　　所：仙台市　夢メッセみやぎ
来 場 者：18,300人
内　　容：出展者：384社、出展技術：952技術、
新技術プレゼンテーション：54題

技術部会

■摺上川ダム試験放流技術アドバイザー派遣
月　　日：令和７年３月19日㈬
場　　所：摺上川ダム管理所
技術支援：①緊急放流バルブからの最大放流における振動状況確認
②現地打合せ
派 遣 者：狩野武志 技術部会副部会長
関野広光 専門技術員

■令和７年度　雄物川総合水防演習
月　　日：令和７年５月25日㈰
場　　所：秋田県大仙市小貫高畑地先（大曲の花火公園）
参 加 者：約1,300名
支部からの参加者：
高橋弘 東北支部長
福田智之 技術部会長
内　　容：①水防工法訓練
②総合防災訓練
③防災展

施工部会

■令和６年度　除雪講習会（臨時）
月　　日：令和６年12月４日㈬
場　　所：ＪＣＭＡ東北支部会議室
受 講 者：５名

■令和６年度　建設機械施工技能実習評価試験
（１月宮城定期試験）
月　　日：令和７年１月16日㈭～17日㈮
場　　所：ＣＡＴ宮城教習センター
受 験 者：学科77名　実技98名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

■令和６年度　建設機械施工技能実習評価試験
（３月宮城定期試験）
月　　日：令和７年３月12日㈬～14日㈮
場　　所：ＣＡＴ宮城教習センター
受 験 者：学科79名　実技103名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

■令和7年度　東北土木技術人材育成協議会
第１回ワーキング（Ｗｅｂ）
月　　日：令和７年４月22日㈫
出 席 者：松芳健一 東北技術事務所総括技術情報管理官　ほか11名
議　　題：①基礎技術講習会（インフラＤＸ）【各県開催】の実施方針（案）について
②意見交換

■令和７年度　建設機械施工技能実習評価試験
（５月宮城定期試験）
月　　日：令和７年５月21日㈬～22日㈭
場　　所：ＣＡＴ宮城教習センター

受 験 者：学科70名　実技81名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

■橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算、及び建設機械等損料講習会

月　　日：令和７年６月９日㈪
場　　所：仙台市　フォレスト仙台
受 講 者：22名
内　　容：①大口径岩盤削孔の施工技術と積算
②建設機械等損料の積算
③鋼橋架設の施工技術と積算
④ＰＣ橋架設の施工技術と積算

■令和７年度　建設機械施工管理技術検定試験

日　　時：令和７年６月15日（日）
場　　所：滝沢市　岩手産業文化センター
受 検 者：１級　第一次検定　280名
第二次検定（筆記）　80名
２級　第一次検定　共通　476名
第１種　49名、第２種　398名
第３種　15名、第４種　53名
第５種　6名、第６種　4名
第二次検定　288名

建設部会

■令和７年度　第１回建設部会

月　　日：令和７年４月17日㈭
参 加 者：飯田英厚 建設部会長　ほか８名
内　　容：①令和７年度特殊現場見学会について
②次回の建設部会について
③その他

情報化施工委員会

■令和６年度　青森県ＩＣＴ施工活用セミナー

月　　日：令和６年12月５日㈭
場　　所：アピオ青森
事例紹介：ＩＣＴ活用事例と内製化
講　　演：ＩＣＴ活用工事の定着に向けて
受講者数：40名
講　　師：鈴木勇治 委員長

■東北地方整備局「インフラＤＸ（点群処理体験実習）」研修　第Ⅲ期

月　　日：令和６年12月18日㈬～19日㈭
場　　所：東北技術事務所　研修棟
【実習】①点群処理体験実習（点群データ処理編）
②点群処理体験実習（数量算出・出来形編）
受講者：17名

■令和６年度　青森県農業農村整備のＩＣＴ活用工事発注者研修会

月　　日：令和６年12月20日㈮
場　　所：青森県土地改良会館　５階中会議室
【座学】①ＩＣＴ活用工事の概要
②農業整備のＩＣＴ適用例
③３次元データの活用
④ＩＣＴ工事の監督・検査
講　　師：鈴木勇治 委員長、須賀川純一 委員
受 講 者：27名

■令和６年度　基礎技術講習会（インフラＤＸ）（主催：東北土木技術人材育成協議会）⑩10回目

場　　所：東北技術事務所　研修棟
月　　日：令和７年１月16日㈭
受 講 者：16名

■令和6年度　東北土木技術人材育成協議会（対面＋Ｗｅｂ会議）

月　　日：令和７年３月３日㈪
出 席 者：宮本健也　東北地方整備局　企画部長　ほか　42名
議　　題：①令和６年度活動報告
②令和７年度の活動方針（案）

■令和⑥年度　情報化施工委員会（Ｗｅｂ会議）

月　　日：令和７年３月13日㈭
出 席 者：鈴木勇治 情報化施工技術委員会委員長　ほか38名
議　　題：①ＩＣＴセミナー（６県セミナー）について
②インフラＤＸ基礎技術講習会について
③建設ＩＣＴ総合研修（i-Academy）について
④その他

会員情報

新入会員

○**東京計器株式会社**（2024年４月17日）
仙台営業所長　小森　大輔
〒983－0852　仙台市宮城野区榴岡４－12－12
TEL 022－295－5910　FAX 022－295－6041

○**株式会社熊谷組　東北支店**（2025年５月１日）
執行役員支店長　中村　圭
〒980－0011　仙台市青葉区上杉５－３－36
TEL 022－262－2811　FAX 022－214－4034

○**株式会社仙台銘板**（2025年７月１日）
代表取締役　鹿又　浩行
〒980－0021　仙台市青葉区中央３－８－33
Ｔ－ＰＬＵＳ仙台８Ｆ
TEL 022－395－4350　FAX 022－395－4423

○**株式会社新庄採石工業所**（2025年７月１日）
取締役　管理部長　柿﨑　赳
〒996－0091　新庄市十日町1574－３
TEL 0233－23－5077　FAX 0233－23－4665

○**佐藤建設株式会社**（2025年７月１日）
代表取締役　佐藤　二幸
〒973－8411　いわき市小島町２－３－３
TEL 0246－26－2771　FAX 0246－26－2779

代表者変更

○**日本キャタピラー合同会社**（2024年12月１日）
南東北地区営業本部長　齋藤　正憲
（旧　北東北地区
兼南東北地区営業本部長　永谷　哲也）

○**株式会社テクアノーツ**（2024年12月１日）
施工本部長　河野　芳成
（旧　関東・東北方面営業統括　河野　芳成）

○**青木あすなろ建設株式会社　東北支店**
（2025年１月20日）
支店長　泉谷　佳津男
（旧　榎本　雅哉）

○**青木あすなろ建設株式会社　東北支店**
（2025年４月１日）
支店長　伊原　健雄
（旧　泉谷　佳津男）

○**株式会社イクシス**（2025年３月14日）
東北拠点長　栗原　弘輔
（旧　Sales Manager　庵木　嶺）

○**大管工業株式会社**（2025年３月28日）
代表取締役社長　大阪　高弘
（旧　代表取締役社長　大阪　智）

○**鹿島建設株式会社　東北支店**（2025年４月１日）
支店長　横井　隆幸
（旧　支店長　勝治　博）

○**西松建設株式会社　北日本支社**
（2025８年４月１日）
執行役員北日本支社長　鷹野　文英
（旧　北日本支社長　濱﨑　伸介）

○**コマツ福島株式会社**（2024年７月１日）
代表取締役　苅谷　秀行
（旧　代表取締役　梅川　栄）

○**コマツカスタマサポート株式会社　東北カンパニー**
（2025年４月１日）
社長　伊藤　暢彦
（旧　社長　砂山　雅彦）

○**前田道路株式会社　東北支店**（2025年４月１日）
執行役員支店長　小野　和夫
（旧　支店長　代田　雅和）

○**日本道路株式会社　東北支店**（2025年４月１日）
支店長　細田　武志
（旧　執行役員支店長　石川　誠一）

○**株式会社快適空間ＦＣ**（2024年12月３日）
代表取締役社長　益田　俊信
（旧　代表取締役社長　鵜飼　尚弘）

○**株式会社安藤・間　東北支店**
（2025年４月１日）
執行役員支店長　木下　真
（旧　執行役員支店長　宮川　隆太郎）

○**株式会社ＮＩＰＰＯ　東北支店**（2025年４月１日）
執行役員支店長　高橋　誠治
（旧　執行役員支店長　山口　秀樹）

○**清水建設株式会社　東北支店**（2025年４月１日）
常務執行役員支店長　大橋　成基
（旧　執行役員支店長　大橋　成基）

○**ライカジオシステムズ株式会社**（2025年５月１日）
代表取締役　城戸　良行
（旧　代表取締役　日比　孝典）

○**株式会社小野良組**（2025年５月28日）
代表取締役社長　平野　省吾
（旧　代表取締役社長　熊谷　光太郎）

○**株式会社ジェノバ**（2025年６月15日）
営業部長　福田　勝也
（旧　代表取締役　河野　芳道）

住所変更

○**本間建設株式会社**（2024年１月18日）
〒999－7201　鶴岡市山五十川甲717－１

○**株式会社カナモト**（2025年１月７日）
〒983－0039　仙台市宮城野区新田東３－５－１
ＡＳＭＡＣＩ仙台ＴＭビル２Ｆ

○**鹿島建設株式会社　東北支店**（2025年５月７日）
〒980－0021　仙台市青葉区中央４－４－19
アーバンネット仙台中央ビル16Ｆ

○**株式会社ＮＩＣＨＩＪＯ　東北営業所**
（2025年５月１日）
〒984－0051　仙台市若林区新寺１－２－26
小田急仙台東ビル８階

退会

○**開成建設株式会社**（2025年３月31日）

東北支部　新入職員の紹介

今年度、東北支部に２名の職員が採用されましたので、ご紹介します。

令和７年４月１日採用
専門技術員　土肥孝俊

主に、除雪講習会や建設機械施工管理技術検定試験を担当します。

令和７年７月１日採用
鈴木裕美

庶務･経理一般を担当します。

支部にお越しの際は、お気軽にお声がけください。

支部たより　189号

令和7年7月25日発行
発　　行　（一社）日本建設機械施工協会東北支部
〒980-0014　仙台市青葉区本町3－4－18　太陽生命仙台本町ビル5F
ＴＥＬ　022－222－3915　ＦＡＸ　022－222－3583
ホームページアドレス　https://www.jcmatohoku.com/
メールアドレス　jcma-futukamati@mbr.nifty.com

令和7年度　除雪講習会開催のご案内

番号	地区	講習会場		開催月日
1	青森(1)	青森産業会館	青森市第二問屋町４-４-１	９月17日(水)
2	青森(2)	青森産業会館	青森市第二問屋町４-４-１	９月18日(木)
3	弘　前	弘前文化センター	弘前市大字下白銀町19－４	９月19日(金)
4	会津(1)	会津アピオ	会津若松市ｲﾝﾀｰ西90	９月25日(木)
5	会津(2)	会津アピオ	会津若松市ｲﾝﾀｰ西90	９月26日(金)
6	横手(1)	秋田ふるさと村	横手市赤坂字富ヶ沢62-46	９月30日(火)
7	横手(2)	秋田ふるさと村	横手市赤坂字富ヶ沢62-46	10月１日(水)
8	秋　田	秋田テルサ	秋田市御所野地蔵田３-１-１	10月２日(木)
9	山形(1)	山形市ビッグウイング	山形市平久保100番地	10月７日(火)
10	山形(2)	山形市ビッグウイング	山形市平久保100番地	10月８日(水)
11	新庄(1)	新庄市民文化会館	新庄市堀端町４－67	10月９日(木)
12	新庄(2)	新庄市民文化会館	新庄市堀端町４－67	10月10日(金)
13	岩手(1)	岩手産業文化センター	岩手県滝沢市砂込389－20	10月14日(火)
14	岩手(2)	岩手産業文化センター	岩手県滝沢市砂込389－20	10月15日(水)
15	宮　古	宮古市陸中ビル	宮古市宮町１-３-５	10月17日(金)
16	奥州(1)	奥州市文化会館	奥州市水沢佐倉河字石橋41	10月23日(木)
17	奥州(2)	奥州市文化会館	奥州市水沢佐倉河字石橋41	10月24日(金)
18	仙台(1)	フォレスト仙台	仙台市青葉区柏木１-２-45	11月５日(水)
19	仙台(2)	フォレスト仙台	仙台市青葉区柏木１-２-45	11月６日(木)
計　　11会場（19回開催）				

受講料は会員価格あり、会場によっては定員に達する場合があります。

編集後記

先日、職場における熱中症対策が義務化されました。近年は、世界各地で気温の上昇が報告されており、日本では100年で平均気温が1.4℃程度上昇したというデータもあります。年々夏の暑さが厳しくなっており、今年の夏も猛暑となることが予想されています。今後は、職場の環境整備・作業時間の見直し等による熱中症対策は、作業者の命を守るためにも必須であると感じています。

話は変わりますが、6月4日・5日に夢メッセみやぎにおいてEE東北‘25が開催されました。会場では約300のブースで建設事業に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を紹介されていました。

先述のとおり、時代の流れによって、環境が移り変わり、ニーズも変化しています。今の時代のニーズに合わせた有益な技術が多く紹介されており、業界の急速な発展を感じることができました。今後もさらなる発展で業界全体が大きく進んでいくことを期待しています。

最後に、「支部たより第189号」の発刊にあたり、執筆を担当してくださった方々に厚くお礼申し上げます。会員の皆様には、引続きJCMA東北支部の活動へのご協力をお願いします。

（広報部会委員　菅原　一将　㈱NIPPO東北支店）